

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190102679		
法人名	(株)アバンセライフサポート		
事業所名	グループホームこころ岐阜		
所在地	岐阜市栄新町3丁目100番		
自己評価作成日	令和7年12月23日	評価結果市町村受理日	令和8年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2190102679-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設内の設備点検・清掃以外にも、気が付いたら汚れをとったり、利用者に快適で安全に過ごしてもらえるよう努めています。利用者同士楽しく過ごしていただくために、1ヶ月に1度季節に合った行事を開催したり、毎日短い時間ではあるが、レクリエーションを行っています。また医療連携を取り、24時間体制で健康管理を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所のフロアから、利用者の笑顔と笑い声が聞こえ、何気ない会話からも楽しさが伝わってくる。職員は利用者と家族の思いや希望に寄り添いながら、利用者それぞれの心身の状況に合わせて、自立した生活を営めるよう支援している。管理者は、職員一人ひとりが介護の質の向上を目指し、専門職としての意識改革に取り組んでいる。3階建ての事業所は居室からも金華山を眺める事が出来、花火大会は屋上から全員で鑑賞している。各階に機械浴の設置があり、安心安全な入浴支援をしている。看取り期には、他の利用者や職員、家族と共に、利用者が人生の最期を穏やかに過ごせるよう支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外国人職員が多いため、わかりやすい理念を作り、申し送り・会議で読み上げて共有しています。また会議で再確認しています。	法人の企業理念、行動指針は事務所に掲示し、職員が確認できる環境にある。また、外国人職員にも分かりやすいよう、独自のスローガンとして「元気、笑顔、おもいやり」を掲げている。朝の申し送り時に唱和し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校の“子供110番の家”を継続しております。また、自治会に加入し、現在は分別回収や清掃・回覧板でのやり取りを行っております。	自治会に加入し、地域住民と共に掃除当番を行うなど、地域の一員として活動に参加している。近隣小学校の子供110番の家は継続しており、学校から感謝状が届いている。地域とつながる活動として、少しでも地域貢献できるよう取り組んでいる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回のペースで行っています。出された意見があれば、サービスに活かしています。	同法人運営の事業所と共に、隔月で運営推進会議を開催している。近況報告として事故報告やヒヤリハット、行事予定、意見交換を行っている。構成員から活発な意見が出され、サービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受給されている方もあり、生活福祉課の担当者とは細目に連絡を取り合っています。	運営推進会議への参加を依頼しており、担当者の都合によっては出席を得られない日もある。生活福祉課の担当者とは、連絡を取りながら情報の共有を行い、利用者への支援が適切に行えるよう、協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け、年に4回受講し、身体拘束をしないケアの実践を理解しケアに活かしております。	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束の弊害について全職員に周知している。現在、家族の同意を得て、2点柵を設置している利用者があるが、経過記録と見守りにて短時間での解除に努めている。Web研修でも拘束について学び、全職員で意識強化に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設け、年に4回受講し、職員一人一人が自分自身だけでなく、他の職員の言動にも注意し、虐待防止に努めています。	虐待防止委員会を定期的に開催し、事例をもとに話し合っている。外部研修にも参加し、研修内容を全職員で共有している。虐待の芽チェックリストの確認を実施し、自らのケアを振り返っている。また、利用者への言葉遣いが不適切と思われる場合は、管理者が個別に指導している。	

岐阜県 グループホームこころ岐阜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には、入居前に地域包括支援センターや市役所と連絡を取りながら支援を行っています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書に従い、ゆっくりと不明な点がないか、その場で確認しながら、口頭で説明しています。利用料改定時には、文書でお知らせし、同意を得ています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員がいつでも意見や提案をしやすい環境を作り、話し合いの場を設け反映しています。	ホーム便りには、行事やレクリエーション、誕生日会等の写真や食事内容と共に、利用者自筆のメッセージを掲載し、家族に送付している。家族の面会時には、意見や意向を聴き、個別ケアに反映させている。	アンケート結果から、外出や介護計画作りに関して、事業所の支援が家族に伝わっていないように思われる。毎日の散歩風景や外出中の利用者の様子をホームたよりに掲載したり、他の方法でも家族に伝える工夫を期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は直接・会議にて提案を聞き、検討できる場を設けています	管理者は現場の業務にも就いており、職員の意見や提案を聴き、改善に繋げている。朝の申し送りや、夜勤交代時、職員会議の際に全職員で利用者の状態やケアプラン等を確認し、情報を共有している。	管理者は、日常的に職員の意見や提案を聞いている。出来得るなら、外部評価の自己評価についても、職員と共に検討しながら、実践できていることや目標としていることを記述し、今後のケアに繋げたい。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	女性が多く活躍する職場であり、管理者は職員一人一人の状況を把握し、働きやすい職場環境・条件になるよう、努めています。外国人職員が多くなり、日本語は理解できない時があるので、丁寧にゆっくりと説明しています。	希望休の取得や育児・介護など、仕事と家庭の両立ができるよう職員と相談しながらシフト調整を行なっている。休憩場所はあるが、事務所や車の中などで交代で休憩するなど、利用者から離れて過ごす事ができる。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を計画的に受講しています。また資格取得の際のサポートも行っています。	法人のキャリアパス研修を基本に、今までの実績や経験の習得段階に応じて研修を実施している。受講後に研修報告書を作成、研修資料も添付し、他の職員も学べるようにしている。外国籍職員の資格取得も奨励し、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設との意見交換を行ったり、社内で各施設との勉強会や研修を通して、サービスの質の向上を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や現在の状況を踏まえて、作業を一緒に行っています。レクリエーションや行事も参加いただいています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を聞いて、得た情報を職員間で共有し、思いに添えるように努めています。また会話が困難な方には、動作や表情を観察し、行っています。	自身での意思表示が難しい利用者の場合には、何気ない仕草や身振り手振り、筆談等思いや意向を把握するよう心がけている。また、利用者情報を確認したり、家族や他の職員の話を聞きながら、本人本位の支援ができるよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人主体の介護計画をし、本人・家族の意見を参考に、各担当者が他の職員・訪問看護師・ケアマネと話し合っ、モニタリングを行っています	担当職員が把握した利用者の様子や、家族、医師、訪問看護師等の意見をケアマネジャーがまとめ、話し合いながら介護計画を作成している。遠方の家族には介護計画を送付している。ヒヤリハットや事故についても話し合い、予防対策と計画の見直しに繋げている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は詳細に入力し、タブレットで職員が自由に確認できるようになっています。外国人職員の文章で意味不明なところは内容を聞いて、わかりやすく入力してもらっています。	個別記録を申し送りノートとタブレットに落とし込み、利用者の情報を共有している。外国籍の職員の記録は、その日の担当職員が確認し、誰でも分かるような書き方や文字の訂正等を教え、正しく記録が行えるようにしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人のニーズに応えられるよう、家族の状況にも合わせて、インフォーマルサービスも取り入れています。	利用者1人ひとりの状態に合わせた機能訓練や、ゲームを取り入れるなどで支援している。希望に応じて、訪問美容も利用できるよう支援している。できる限り、個々のニーズに合わせた対応を行えるよう努めている。	

岐阜県 グループホームこころ岐阜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で安心して過ごしていただけるように、以前のような取り組みができるようにしています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面に不安を感じられる方が多いため、内科医・精神科医・歯科医の往診を受けて、受診が必要な際には、家族に状況を説明し、受診の支援を行っています。	契約時に、かかりつけ医の選択について、本人・家族に説明している。現在、月2回協力医の往診を受け、訪問看護師も週1回訪れている。専門医への受診は家族同行としているが、緊急時は職員が付き添って受診し、受診結果を共有している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーを持参し、退院時には看護サマリーを受け取っています。入院中は家族・地域連携室と連絡を取り、早期退院へ向け情報交換を行なっています。	入院時は管理者と担当者が付き添い、介護サマリーを提供している。入院中は、家族や地域連携室の相談員と連携を図っている。退院後も、医療的ケアの継続の必要がなければ、家族と相談しながら事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の対応について説明し同意を得ています。重度化した場合、主治医と家族が話し合える場を設け、方針を共有しています。	看取り指針を整備し、契約時に利用者・家族に説明し同意を得ている。看取り支援を望む利用者・家族が多く、他の利用者や職員と一緒に、最期まで穏やかに過ごせるよう、ターミナルケアを学びながら、より良い支援の提供に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を作成し、職員間で共有しています。急変時のマニュアルを、フロアに掲示して、いつでも確認できるようにしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	介護保険課の防災訓練年1回、管轄の消防署・防災会社の協力のもと通報・初期消火・避難訓練年2回、洪水の訓練・研修も行っています。	消防署や防災会社の協力を得て、定期的に防災訓練を実施している。通報や消火器を使った消火訓練や利用者を安全に避難誘導できるよう取り組んでいる。AEDも設置し、非常食と水は全員の3日分を確保している。長良川が近く、水害訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の生活のペース・価値観を尊重し、自尊心を傷つけないよう、言葉がけに配慮しています。	職員は、常に傾聴に努め、穏やかな言葉かけを心がけている。排泄や入浴介助は、同性介助の希望にも応じている。出入りがしやすく、アコーディオンカーテンドアを付けたトイレは、職員がケアもしやすくなっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者主体の生活を送っていただけるよう、気持ちを引き出せるような言葉がけや表情から意図していることを感じとれるよう、働きかけをしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が困難な方も多いため、表情や体調等を読み取り、支援を行っています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部に依頼していますが、月に一度の行事の際は、手作り昼食・おやつを、リクエストに応じ、提供しています。	毎日の献立をフロアの見やすい所に掲示している。月に1度、「手作り昼食」の日を設け、ちらし寿司や五目御飯など、利用者の希望を取り入れ、食べる楽しみを増やしている。外国籍職員が自国の料理やおやつを調理し、提供することもある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス・水分不足にならないようにし、健康状態・体重を把握し、必要に応じ、食事形態を一口大・刻み・ペースト・粥・とろみなどにして、提供しています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア以外に、希望や状態に応じ、歯科医・歯科衛生士の往診を依頼されたり、受診(往診)されたらどうか、家族と話し合い、決めてもらっています。	毎食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。全職員が口腔ケア研修を受講し、利用者が自分で出来ない部分は、職員が適切にサポートしている。治療や義歯の調整が必要な場合は、希望に応じて家族と相談し、受診に繋げている。	

岐阜県 グループホームこころ岐阜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の状態に応じ、全介助・半介助・一部介助・声掛けにてトイレ誘導を行い、尿意・便意のない方もトイレ誘導を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全を重視し、曜日・時間帯は決まっていますが、ヒートショック・夏場も、のぼせなど体調が悪くならないように注意しています。入浴後は水分補給をしてもらっています。入浴拒否の方は、時間をおいたり、様子を見ながら、入っていただいています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者の方が多く、日中休養を取り入れたり、体調に合わせて、休んでいただいています。夜間、利用者の希望通りに居室を明るくし、トイレ行かれる方の危険回避のために、廊下を明るくしています。センサー対応の方もすぐ駆けつけるようにしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を委託している薬局の薬剤師より薬情報を得、副作用などを理解し、服薬忘れ、誤薬のないよう、再三の注意を払っています。往診時に体調変化など報告し、薬の相談をしています。	薬剤師が薬をセットしている。服薬支援時は、職員が声出し確認にて、誤薬防止に努めている。薬の袋を捨てる前に再度チェックをするなど、複数職員で飲み残しがないか確認している。薬剤情報は事務室に保管し、いつでも確認できる体制にある。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や趣味を把握し、役割を持ち、趣味を楽しめるよう努めています。朝のティータイムにお好みの飲み物を提供しています。レクリエーションの時間を設け、楽しんでいただき、他の利用者同士の交流もできるようにしています。	利用者の得意な事ややりたいことを聞き、洗濯物干しや洗濯たたみなどの家事作業を担ってもらっている。お楽しみ会では、職員や他の利用者と一緒に身体を動かしながら、様々なゲームをするなど、出来る事にチャレンジしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ね、天候の良い日に、散歩に出かけていただいています。	天候を見ながら散歩に出かけている。季節感を感じられるよう、花の水やりや野菜作り、草むしり等を職員と一緒にこなしている。市の花火大会の時には全員で屋上に上がり、花火を楽しんでいる。家族と共に、外食や墓参りに出かける利用者もある。	

岐阜県 グループホームこころ岐阜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員の方が、家族に管理をお願いしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、家族に電話をしてもらっています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアで過ごされる利用者も多く、季節を感じてもらえるよう、壁面飾りや花を飾り、室温等にも配慮しています。家庭菜園もして、収穫したものを朝のみそ汁の具にして、利用者に召し上がっていただいています。	玄関やフロア、廊下の壁には、季節毎に作った利用者の作品や職員との共同作品が飾られている。どの場所も整理整頓され、換気や適切な温度調整により居心地の良い環境となっている。玄関のある1階は人の出入りが多いため、暖房器具が1台多く設置してある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者と楽しめる空間を提供し、居心地のいい環境を作るように努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や必要な家電の持ち込みは自由にし、居室内の配置も本人や家族と相談し、安全で居心地のいい居室にしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には必要に応じ、ポータブルトイレを設置しています。2・3階には転落防止のバーを取り付け、階段にも転落防止扉を設置しています。		